OLYMPUS®

エレクトロニックフラッシュ

FL-50R

取扱説明書

各部の名称

フラッシュ

ワイドパネル ☞P.26

発光窓

外部電源コネクター
- 別売のフラッシュパワーグリップFP-1 ／フラッシュハイボルテージパックHV-1の接続端子です。

端子カバー

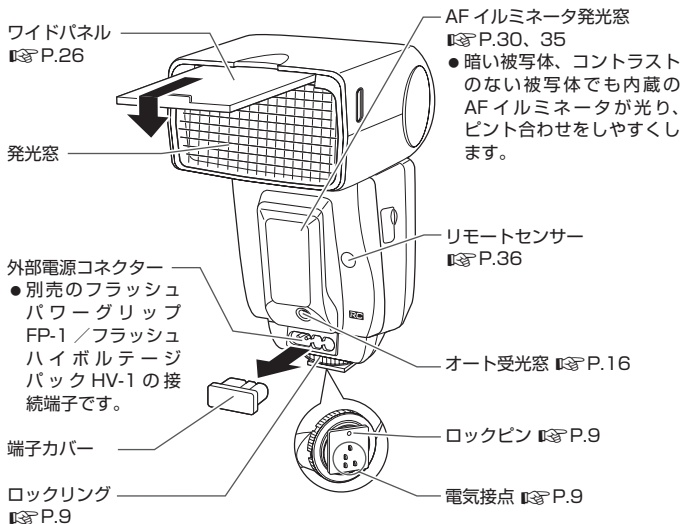
ロックリング ☞P.9

AF イルミネータ発光窓 ☞P.30、35
- 暗い被写体、コントラストのない被写体でも内蔵のAF イルミネータが光り、ピント合わせをしやすくします。

リモートセンサー ☞P.36

オート受光窓 ☞P.16

ロックピン ☞P.9

電気接点 ☞P.9

同梱品

お買い上げの商品には次の付属品が入っています。万一、不足していたり、破損している場合には、お買い上げ販売店までご連絡ください。

フラッシュ本体

バウンス上下角度指標 ☞P.22

バウンス左右角度指標 ☞P.22

コントロールパネル ☞P.4

LIGHT ボタン
- コントロールパネルが約 15 秒間点灯します。通信機能付カメラ側の制御によっても点灯します。

ダイヤル A

ダイヤル B

バウンスロック解除ボタン ☞P.9、22

アクセサリー取り付け部 ☞P.23

MODE ボタン ☞P.12

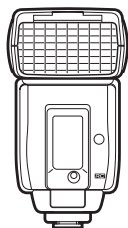
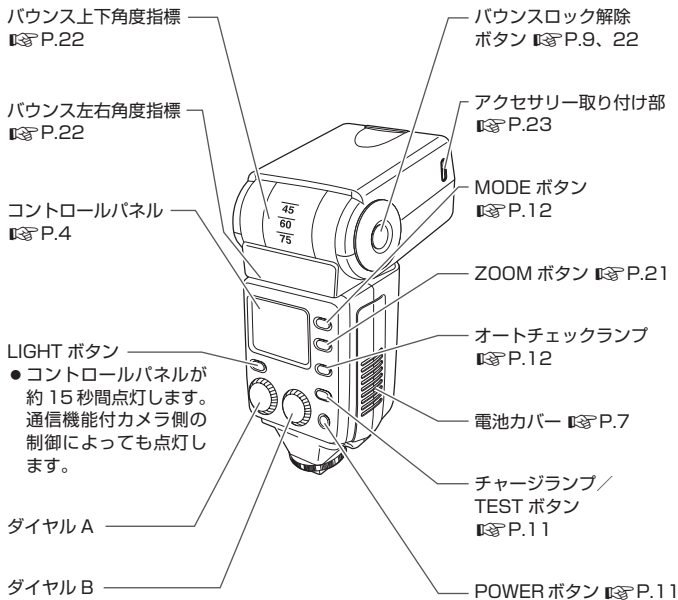
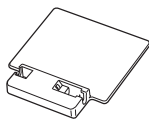
ZOOM ボタン ☞P.21

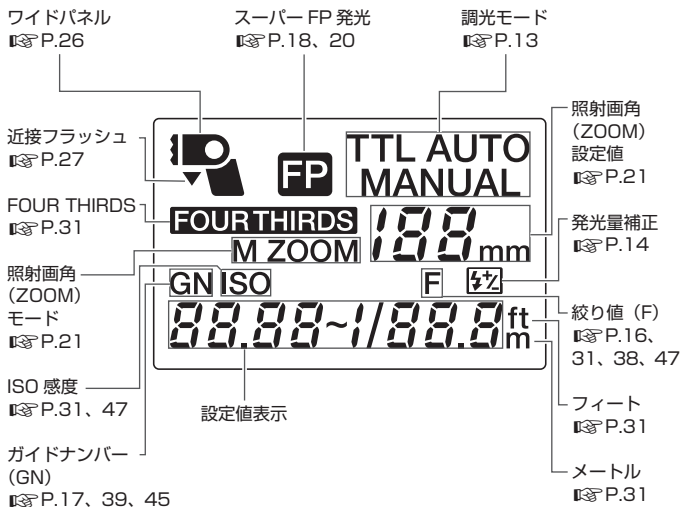
オートチェックランプ ☞P.12

電池カバー ☞P.7

チャージランプ／TEST ボタン ☞P.11

POWER ボタン ☞P.11

プレート　ベルト

フラッシュスタンド FLST-1　バウンスアダプター FLBA-1　リフレクタアダプター FLRA-1

- フラッシュケース
- 取扱説明書（本書）
- 保証書

コントロールパネル

本書について

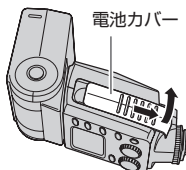
コントロールパネルの表示はお使いになるカメラ、本機の設定、撮影条件等により図と異なることがあります。
照射画角（ZOOM）表示は、次の 2 通りの選択ができます。

① FOUR THIRDS.....「フォーサーズシステム」デジタルカメラの焦点距離で表示
② 135.........................135 型：35mm フィルムカメラの焦点距離の画角に換算して表示

本書では [FOUR THIRDS] で記載し、[135] の数値は「（135 時：×× mm）」と併記しています。なお、選択のしかたについては「カスタム設定」（☞P.30）をご覧ください。

もくじ

基本の撮影

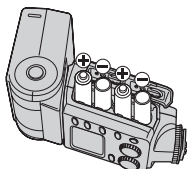
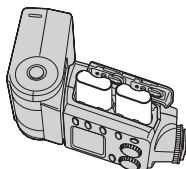
電池を入れる

電池（別売）は、次のいずれかの種類のものをご使用ください。

- 単 3 アルカリ電池／単 3 ニッケル水素電池／
  単 3 リチウム電池／単 3 オキシライド電池／
  単 3 ニッカド電池　：4 本
- CR-V3（当社製 LB-01）リチウム電池パック　：2 個

注意

- 単 3 マンガン電池は使用できません。
- 種類の違う電池あるいは新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。
- 長期旅行や寒冷地の撮影には予備の電池をご用意ください。

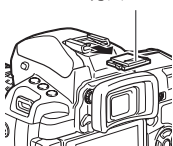
1 電池カバーを開きます。

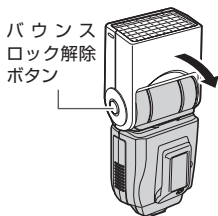
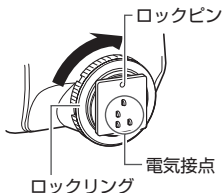
2 電池の向きを正しく合わせて入れます。

単 3 タイプ

CR-V3

3 電池カバーを閉じます。

電池別の発光間隔と発光回数

使用電池	発光間隔	発光回数
単３アルカリ電池	約６秒	約 150 回
単３ニッケル水素電池（2400mAh）	約４秒	約 200 回
単３リチウム電池	約６秒	約 200 回
単３オキシライド電池	約５秒	約 170 回
CR-V3 リチウム電池パック	約５秒	約 220 回

* 当社試験条件によります。撮影条件により異なることがあります。

カメラに取り付ける

カメラとフラッシュの電源が切れていることを確認してください。
電源が入ったまま取り付け、取り外しをすると故障の原因となります。

1 バウンスロック解除ボタンを押しながら発光部を基本の位置（水平、正面位置）にセットします。

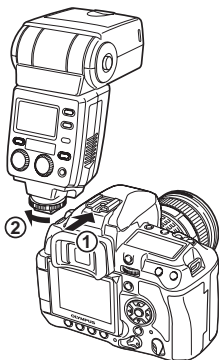
2 カメラのホットシューカバーを外します。

- ホットシューカバーはフラッシュケースの内側にあるポケットに入れて保管してください。

3 ロックリングを緩めます。

- ロックピンが出ている場合は、ロックリングを「← LOCK」の反対方向に止まるところまで回して、ロックピンを引込めます。

注意

- ロックリングに必要以上の力をかけないようにしてください。
- 電気接点に、指や金具等で触れないでください。
- ロックピンが出た状態でカメラに装着しないでください。故障の原因になります。

4 フラッシュをホットシューの奥にカチッと突き当たるまで、しっかりと差し込みます（①）。

5 ロックリングを「← LOCK」方向に止まるまで回します（②）。

取り外す

1 ロックリングを完全に緩め、ホットシューからスライドさせて抜きます。

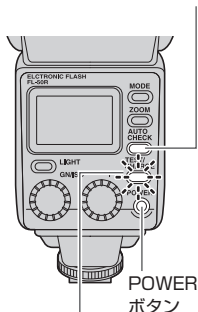
2 カメラのホットシューカバーを取り付けます。

ホットシューのないカメラで使用する

- 外部フラッシュ端子のあるカメラは、フラッシュブラケット、ブラケットケーブル（別売）を使用して取り付けます。
- オリンパスワイヤレス RC フラッシュシステム対応のカメラはワイヤレスフラッシュとして使用できます。☞「ワイヤレスフラッシュ撮影」（P.33）
- スレーブモードやマニュアル発光モードのあるカメラは、スレーブフラッシュとして使用できます。☞「スレーブフラッシュ」（P.40）

電源を入れる

カメラに取り付けてから電源を入れます。電源を入れたら必ず電池残量を確認してください。

オートチェックランプ

POWER
ボタン

チャージランプ／
TEST ボタン

1 POWER ボタンを押します。

- コントロールパネルが点灯し、充電が始まります。
- 再度 POWER ボタンを押すと電源が切れます。

2 チャージランプが点灯することを確認します。

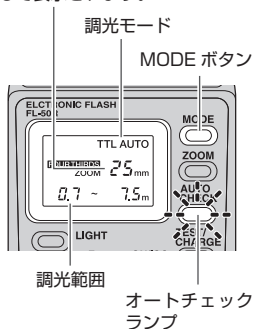
- チャージランプの点灯までの時間が以下のようになったら早めに電池を交換してください。

アルカリ電池 オキシライド電池	30 秒以上
ニッケル水素電池 リチウム電池	10 秒以上

- チャージランプとオートチェックランプが同時に点滅したときは電池が著しく消耗しています。必ず、新しい電池と交換してください。
- TEST ボタンを押すと発光させることができます。

撮影する

TTL AUTO で撮影してみましょう。TTL AUTO ではカメラ側の設定に合わせて光量を自動的に制御します。

照射画角
レンズの焦点距離に連動して表示されます。

1 カメラの撮影モードを **P**（プログラムオート）にします。

2 MODE ボタンを繰り返し押して調光モードを [TTL AUTO] に設定します。

3 シャッターボタンを半押しします。

- カメラとフラッシュ間で撮影情報の通信が行われコントロールパネルに調光範囲が表示されます。
- 被写体が調光範囲内にないときは撮影距離を変えてください。
- 調光範囲はカメラ側の設定（ISO 感度／絞り値／レンズの焦点距離）によって変化します。

4 シャッターボタンを全押しして撮影します。

- 撮影後、オートチェックランプが約 5 秒間点滅すれば正しく発光しています。

調光モードの種類

撮影する被写体や条件に合わせて調光モードを選びます。MODE ボタンを繰り返し押して、調光モードを切り換えます。

コントロールパネル表示	制御内容	主な用途	参照ページ
TTL AUTO	カメラの設定に合わせて、発光量を自動的に制御します。カメラのレンズを通した明るさで調光します。	通信機能付カメラは通常このモードをお使いください。	P.12
AUTO	カメラの設定に合わせて、発光量を自動的に制御します。フラッシュのオート受光窓を通した明るさで調光します。	通信機能付カメラは AUTO モード対応機種のみ使えます。	P.16
MANUAL	設定したガイドナンバーで発光します。	マニュアル発光での撮影。	P.17
FP TTL AUTO	スーパー FP 発光。カメラのフラッシュ同調速度より高速秒時でもフラッシュを使った撮影ができます。AUTO モードでは自動的に発光量を制御します。MANUAL モードでは設定したガイドナンバーで発光します。	日中シンクロ撮影など屋外のフラッシュ撮影。	P.18、20
FP MANUAL			

注意

- カメラ側の撮影モード、またはお使いになるカメラの機能により使用できないモードがあります。
- 使用できないモードを選ぶことはできません。

カメラの主な撮影モードとフラッシュの動作

表中の数値や動作の詳細は、カメラによって異なります。カメラの取扱説明書でご確認ください。

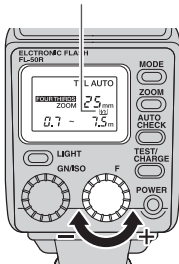
撮影モード	フラッシュの発光	シャッター速度	絞り値
P	発光条件の明るさや逆光を判断して自動的に発光します。	カメラが自動的に設定します。フラッシュが発光する条件では1/30 秒や 1/60 秒に固定されます。	カメラが自動的に設定します。
A		カメラが自動的に設定します。シャッター速度が遅くなる条件では1/30 秒や 1/60 秒に固定されます。	任意の絞り値に設定します。 絞り値はガイドナンバーと調光範囲を参考に設定してください。 ☞「ガイドナンバー（GN）一覧」（P.45）、「AUTO 調光範囲」（P.47）
S	カメラのフラッシュ同調速度以下のシャッター速度では、常に発光します。スーパーFP 発光では常に発光します。	任意のシャッター速度に設定します。	カメラが自動的に設定します。
M			任意の絞り値に設定します。

発光量を補正する

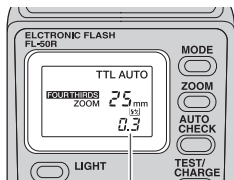
フラッシュ発光量を± 3 段の範囲で補正することができます。

1 カスタム設定で発光量補正を [on] に設定します。☞「カスタム設定」（P.30）

- コントロールパネルに が表示されます。

発光量補正

2 ダイヤル B を回し、発光量補正値を設定します。

- ＋方向に回すと、0 ▸ +0.3 ▸ +0.7 ▸ +1.0... ▸ +3.0 の順に切り換わります。
- −方向に回すと、0 ▸ -0.3 ▸ -0.7 ▸ -1.0... ▸ -3.0 の順に切り換わります。

発光量補正値
（設定時は調光範囲
は表示されません。）

3 カメラ側でフラッシュ補正が設定されているときは、フラッシュで設定した補正値と合算した補正量で発光します。

- コントロールパネルにはフラッシュで設定した発光量補正値のみが表示されます。

例）

	設定した補正値	コントロールパネルの発光量補正値表示	実際に発光する補正量
フラッシュ	+0.3	+0.3	+0.6
カメラ	+0.3		

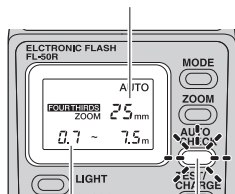
注意

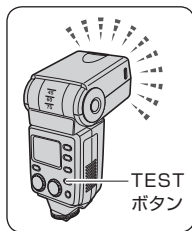
- MANUAL、FP MANUAL モードでは、カメラ側の設定は働きません。

いろいろな撮影

AUTO

フラッシュのオート受光窓で被写体に適切な光量を測定して発光します。カメラの設定とフラッシュの設定を合わせて使います。

照射画角
レンズの焦点距離に連動して表示されます。

調光範囲　オートチェックランプ

1 カメラの設定に合わせて調光範囲がコントロールパネルに表示されます。

- カメラの設定（ISO 感度／絞り値）が使用可能な ISO 感度・絞り値の組み合わせから外れているときは、調光範囲が表示されずに [ISO][F] が点滅して警告します。このときはカメラの設定を変更してください。☞「AUTO 調光範囲」（P.47）

2 シャッターを切った後、オートチェックランプが約 5 秒間点滅すれば正しく発光しています。

テスト発光

シャッターを切る前に発光のテストができます。
TEST ボタンを押すとフラッシュが発光します。
発光後約 5 秒間オートチェックランプが点滅すれば正しく調光されています。
点滅しないときは絞り値、ISO 感度、被写体までの距離等を変更してください。

- テスト発光による調光確認は AUTO モード時のみできます。

MANUAL

設定されたガイドナンバー（GN）で発光します。

1 ダイヤル A または B を回し、ガイドナンバーを設定します。

- コントロールパネルに設定したガイドナンバーとカメラ側の設定で算出された最適撮影距離が表示されます。

2 被写体までの距離が最適撮影距離と異なる場合は、ガイドナンバーの設定を変えるか被写体までの距離を変えます。

- カメラ側の設定（ISO 感度／絞り値／焦点距離／シャッター速度）により最適撮影距離は変化します。詳しくは「ガイドナンバー（GN）一覧」（☞P.45）をご覧ください。

最適撮影距離

ISO 感度が 100 のとき、最適撮影距離＝ガイドナンバー（GN）÷絞り値（F）で計算できます。☞「ガイドナンバー（GN）一覧」（P.45）

FP TTL AUTO

スーパー FP 発光によりカメラの高速シャッター速度でもフラッシュが同調します。

スーパー FP 発光を使用して次のような撮影ができます。
- 逆光撮影で影を和らげた撮影
- 屋外で、絞り開放でバックをぼかした日中シンクロのポートレート撮影

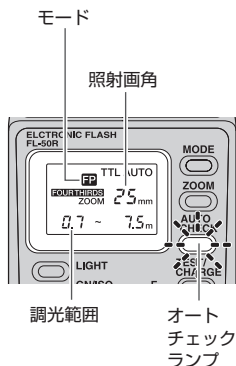
逆光撮影

フラッシュなし

フラッシュあり（FP TTL AUTO）

ポートレート

絞り込んで撮影

絞りを開放で撮影

1 カメラの設定に合わせて調光範囲がコントロールパネルに表示されます。

2 被写体までの距離が調光範囲内にあることを確認します。

- 範囲内にないときは被写体までの距離かカメラ側の設定を変更してください。
- 調光範囲はカメラ側の設定（ISO 感度／絞り値／焦点距離／シャッター速度）により変化します。

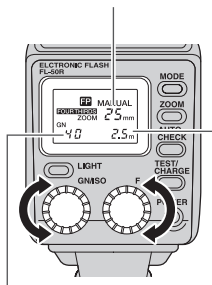
3 シャッターを切った後、オートチェックランプが約 5 秒間点滅すれば正しく発光しています。

注意

- スーパー FP 発光は最大ガイドナンバーが TTL AUTO モードのときより小さくなります。そのため調光範囲も短くなります。

FP MANUAL

設定した発光量でスーパー FP 発光します。

照射画角
レンズの焦点距離に連動して表示されます。

ガイドナンバー　最適撮影距離

1 ダイヤル A または B を回し、ガイドナンバーを設定します。

- コントロールパネルに設定したガイドナンバーとカメラ側の設定で算出された最適撮影距離が表示されます。

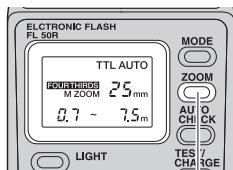
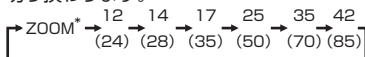
2 被写体までの距離が最適撮影距離と異なる場合は、設定を変えるか被写体までの距離を変えます。

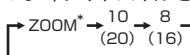
- カメラ側の設定（ISO 感度／絞り値／焦点距離／シャッター速度）により最適撮影距離は変化します。詳しくは「ガイドナンバー（GN）一覧」（☞P.45）をご覧ください。

最適撮影距離

ISO 感度が 100 のとき、最適撮影距離＝ガイドナンバー（GN）÷絞り値（F）で計算できます。☞「ガイドナンバー（GN）一覧」（P.45）

照射画角（ZOOM）の設定

照射画角を任意に設定することができます。

ZOOM ボタン

1 ZOOM ボタンを押して、照射画角を設定します。

- コントロールパネルに [M ZOOM] が表示されます。
- 照射画角は 12/14/17/25/35/42mm（135 時：24/28/35/50/70/85mm）から選びます。
  ZOOM ボタンを押すたびに以下のように切り換わります。

  ZOOM* → 12 (24) → 14 (28) → 17 (35) → 25 (50) → 35 (70) → 42 (85) →（ZOOM* に戻る）

  ワイドパネルを使っているとき
  ☞「ワイドパネルを使う」（P.26）：

  ZOOM* → 10 (20) → 8 (16) →（ZOOM* に戻る）

* [ZOOM]（自動）は通信機能付デジタルカメラでのみ選択できます。

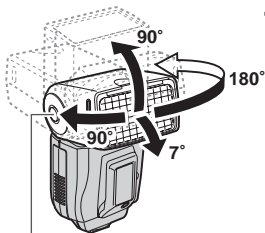
注意

- 使用するレンズの焦点距離より大きな値を選ぶと、写真の周辺が暗くなります。

バウンス撮影

バウンス（反射）とは、フラッシュ光を天井や壁に反射させて撮影する方法です。
被写体全体に光が回るので、強い影の出ないソフトな写真が得られます。

バウンスなし

バウンスあり

バウンスロック
解除ボタン

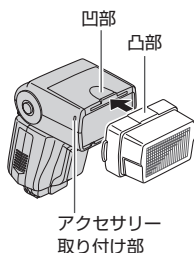
1 バウンスロック解除ボタンを押しながら発光部の向きを回転させます。

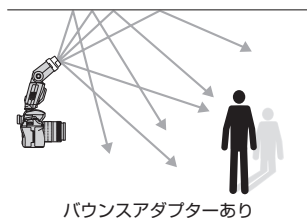
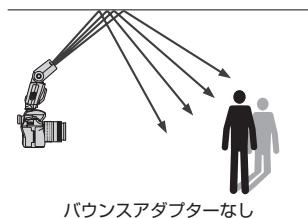
- 下方向 7°にもセットできます。
  ☞「近接フラッシュ」（P.27）

注意

- 発光部がバウンス位置にあるとき、コントロールパネルに調光範囲／最適撮影距離は表示されません。
- フラッシュ光の反射面（天井や壁等）に色があると撮影した写真に影響することがあります。反射面は白に近い色を選択してください。
- 照射画角は自動的に 25mm（135 時：50mm）にセットされ、コントロールパネルには［- -］と表示されます。ZOOM ボタンを押して任意の設定にすることもできます。☞「照射画角（ZOOM）の設定」（P.21）

バウンスアダプターを使う

付属のバウンスアダプターを装着すると、光がアダプターを通して広い範囲に拡散されるので、さらに柔らかな光でバウンス撮影できます。また、広く光が回るので被写体の影が弱まり、柔らかい表現の撮影ができます。

1 バウンスアダプターの凸部とフラッシュの凹部を合わせ、カチッと音がするまで差し込みます。

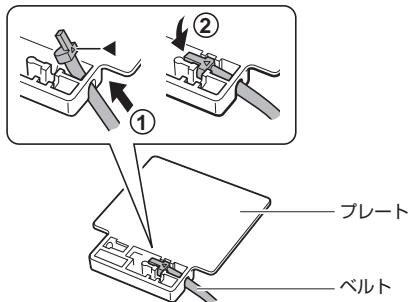
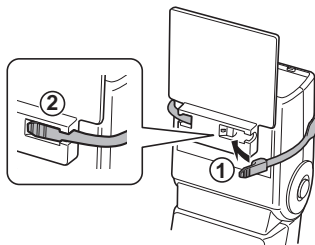
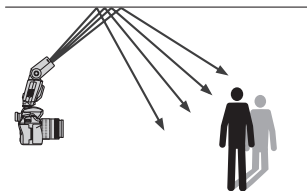
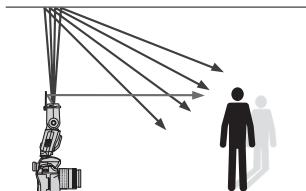
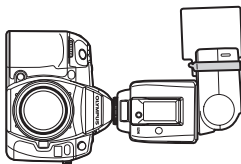
バウンスアダプターなし

バウンスアダプターあり

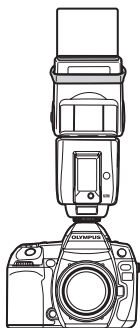
注意

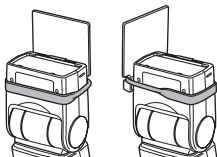
- バウンスアダプターを取り付けるとガイドナンバーが小さくなります。

リフレクタアダプターを使う

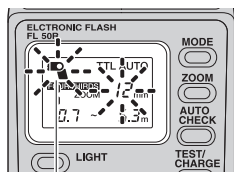
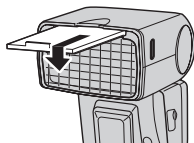
付属のリフレクタアダプターを使ってバウンス撮影すると、フラッシュの光の一部を被写体に向けて反射させることができます。これにより、人物の目に光を映し込むキャッチライト撮影ができます。また、バウンス光で影になってしまう部分をリフレクタアダプターからの光で照射することもできます。

1 リフレクタアダプターのベルトの◀が付いている方をプレートに通し（①）、◀の部分をプレートに差し込みます（②）。

2 フラッシュにプレートの平らな面を合わせてベルトをフラッシュに巻き（①）、ベルトのもう一方をプレートにしっかりと差し込みます（②）。

バウンスのみで撮影

リフレクタアダプターを使っての撮影
キャッチライト効果を得るには、発光部を真上または真横にして、プレートを被写体に向けます。

カメラの構え方やフラッシュの向き、リフレクタアダプターを取り付ける位置により、様々なバウンス撮影を行うことができます。

横に構えた天井バウンス撮影

縦に構えた天井バウンス撮影

プレートはフラッシュのどちらの辺にも取り付けられます。

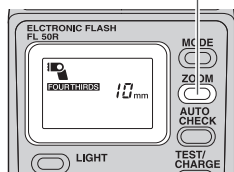
ワイドパネルを使う

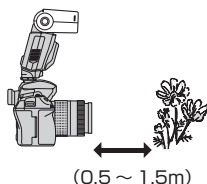
レンズの焦点距離が 12mm よりワイド側でフラッシュ撮影するときは内蔵のワイドパネルを使用してください。

1 焦点距離が 12mm（135 時：24mm）よりワイドになると、コントロールパネルにワイドパネル表示が点滅します。

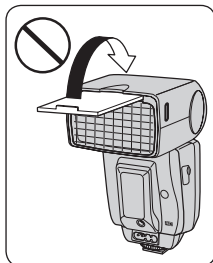
- 通信機能のないカメラでは表示されません。

2 ワイドパネルを引き出し、発光窓の前にセットします。

- コントロールパネルのワイドパネル表示が点灯します。

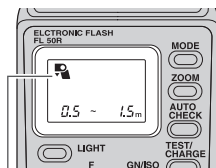
ZOOM ボタン

3 ZOOM ボタンを押して、照射画角を設定します。

- 8/10mm（135 時：16/20mm）から選びます。
- ワイドパネルを使用するとガイドナンバーは小さくなり、撮影可能範囲や最適撮影距離は短くなります。

注意

- ワイドパネルは上側に倒さないでください。破損の原因となります。
- ワイドパネルを引き出した状態で破損すると、ZOOM ボタンが機能しなくなります。このときはワイドパネルスイッチを無効にすることで回復できます。☞「カスタム設定」(P.30)

近接フラッシュ

被写体までの距離が 0.5 ～ 1.5m のときは撮影する範囲とフラッシュの照射範囲がずれるので、バウンスロック解除ボタンを押しながら一番下向き（7°）にセットします。

（0.5 ～ 1.5m）

1 発光部を下方向 7°に向けるとコントロールパネルに近接フラッシュ表示が点灯します。

近接フラッシュ

注意

- 全長の長いレンズ、径の大きなレンズではフラッシュの光がけられることがあります。試し撮りをしてからお使いください。
- 近距離撮影以外は使用しないでください。通常撮影時に発光部を下に向けていると、画面上側のフラッシュ光が不足します。

フラッシュ撮影のいろいろ

カメラ側の設定によりいろいろなフラッシュ撮影ができます。
- カメラの機能および形状により使えない機能もあります。
- 使い方はカメラの取扱説明書をお読みください。

赤目軽減発光

フラッシュの発光により目が赤く写る現象を軽減させます。

スローシンクロ

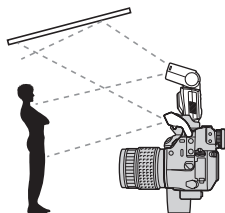
長秒時でシャッターが開いている間にフラッシュを発光させます。
通常はフラッシュ発光時のシャッター速度は固定されますが、このモードでは明るさに応じたシャッター速度まで延長されます。夕景や夜景などの雰囲気を写し込みながら人物撮影ができます。

後幕シンクロ

スローシャッターを使い、露出が終わる直前にフラッシュを発光させます。
被写体とその動きの軌跡により、走る車のテールライトが尾を引くような撮影ができます。

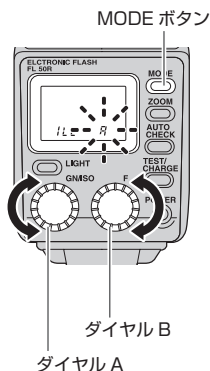
カメラ内蔵フラッシュとの併用

内蔵フラッシュ付カメラではカメラ内蔵フラッシュと併用して撮影することができます。

- 本機をバウンスさせ、内蔵フラッシュでキャッチライト効果を出す等高度な撮影ができます。
- 本機をカメラのホットシューに取り付けた状態では内蔵フラッシュが使えない機種があります。

注意

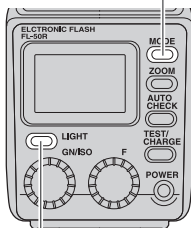
- 本機の調光モードは TTL AUTO または FP TTL AUTO モードに設定してください。

カスタム設定

本機を使いやすいようにカスタム設定することができます。

1 MODE ボタンを 2 秒以上押すと、設定モードに変わります。

2 ダイヤル A を回して設定モードを選びます。

3 ダイヤル B を回して設定値を変更します。

4 MODE ボタンを押して設定を確定します。

設定モード	モード表示	仕様表示	機能	初期設定
	ダイヤル A	ダイヤル B		
AF イルミネータ	ILL	A	カメラ側の制御によりAF イルミネータが働きます。	A
		OFF	AF イルミネータは働きません。	
フラッシュケーブル	CLP	on	フラッシュケーブルを使用しないときの設定に切り換えます（ホットシュー接続、クリップオン接続時)。	on
		OFF	フラッシュケーブルを使用するときの設定に切り換えます（オフフラッシュ接続時)。	

<table>
<tr><th rowspan="2">設定モード</th><th>モード表示</th><th>仕様表示</th><th rowspan="2">機能</th><th rowspan="2">初期設定</th></tr>
<tr><th>ダイヤル A</th><th>ダイヤル B</th></tr>
<tr><td rowspan="2">照射画角（ZOOM）表示</td><td>FOUR THIRDS ZOOM - - mm</td><td>4-3</td><td>照射画角を「フォーサーズシステム」のレンズ焦点距離で表示します。</td><td rowspan="2">4-3</td></tr>
<tr><td>ZOOM - - mm</td><td>135</td><td>照射画角を 135 型の焦点距離に換算して表示します。
35mm フィルムカメラと同じ感覚で使用できます。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">距離表示の単位</td><td rowspan="2">ft
m</td><td>m</td><td>距離をメートル単位で表示します。</td><td rowspan="2">m</td></tr>
<tr><td>ft</td><td>距離をフィート単位で表示します。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">発光量補正</td><td rowspan="2"></td><td>OFF</td><td>発光量の補正が働きません。</td><td rowspan="2">OFF</td></tr>
<tr><td>on</td><td>発光量の補正が働きます。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ワイドパネルスイッチ無効</td><td rowspan="2"></td><td>on</td><td>ワイドパネルスイッチが有効です。ワイドパネルが引き出されていることを検知します。</td><td rowspan="2">on</td></tr>
<tr><td>OFF</td><td>ワイドパネルスイッチが無効です。ワイドパネルが破損したときに設定すると ZOOM ボタンで照射画角を変更できるようになります。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">AUTO モード時 ISO、F 通信
● AUTO モード時、通信機能付カメラのみ働きます。</td><td rowspan="2">ISO F</td><td>on</td><td>ISO 感度・絞り値の設定は、カメラ側より自動的に設定されます。</td><td rowspan="2">on</td></tr>
<tr><td>OFF</td><td>ISO 感度・絞り値をフラッシュ側で設定できます。</td></tr>
</table>

オールリセット

カスタム設定を初期値へ戻すことができます。

1 MODE ボタンと LIGHT ボタンを同時に 2 秒以上押して初期設定に戻します。

- 距離表示単位（m/ft）の設定は変わりません。

ワイヤレスフラッシュ撮影

本機はオリンパスワイヤレス RC フラッシュシステムに対応しています。このシステムに対応したオリンパス製デジタルカメラとの組み合わせで本機をワイヤレス制御することができます。フラッシュモードなどの設定はカメラ側で行い、カメラの内蔵フラッシュで本機を自動的に制御します。
複数のフラッシュを併用して多灯フラッシュ撮影することも可能です。お使いのカメラが本システムに対応しているかどうかは、カメラの取扱説明書をご覧ください。

ワイヤレス撮影では、カメラの内蔵フラッシュによる光通信で本機を制御します。あらかじめフラッシュとカメラ側で以下の設定をしておきます。

RC モード：
　ワイヤレスモードのこと。カメラとフラッシュを RC モードに設定します。

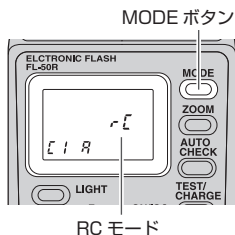
チャンネル：
　他の撮影者のオリンパスワイヤレス RC フラッシュシステムと混信しないようにチャンネルを切り換えます。チャンネルは 1 ～ 4 から任意の番号を選び、カメラとフラッシュで同じ番号に設定します。

グループ：
　A、B、C の 3 つのグループそれぞれに調光モードなどの設定を変えて、ワイヤレスで制御することができます。どのグループで発光させるかをフラッシュ側であらかじめ設定しておきます。

基本の撮影方法

ここではオリンパスデジタル一眼レフカメラ E-3 と本機の組み合わせでの撮影方法を例に説明します。フラッシュの設置範囲やカメラ側の操作はお使いのカメラの取扱説明書をご覧ください。

MODE ボタン

ELCTRONIC FLASH
FL-50R
MODE
ZOOM
AUTO CHECK
LIGHT
TEST/ CHARGE

RC モード

1 カメラとフラッシュを配置します。
☞「配置について」（P.36）

2 フラッシュの MODE ボタンを繰り返し押して RC モードに設定します。

3 カメラの [⚡RC モード] を [ON] に設定して、内蔵フラッシュを発光できる状態にします。

- フラッシュモードや発光量の設定もカメラ側で設定しておきます。

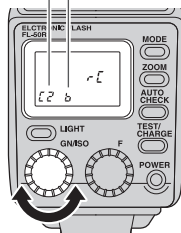
発光量補正値

通常発光／スーパー FP 発光
- 通常発光とスーパー FP 発光を切り換えます。

グループ
- A、B、C、それぞれのグループごとに調光モードを選択し、発光量補正します。MANUAL モードでは発光量を選択します。

通信光量レベル
- 通信光量レベルを [HI]、[MID]、[LO] から選択します。

調光モード　発光量

チャンネル
- 通信のためのチャンネルをフラッシュと合わせます。

4 フラッシュのダイヤル A を回してチャンネルとグループを設定します。

5 撮影準備が終わったら、必ずテスト撮影をしてフラッシュの作動や画像の確認を行ってください。

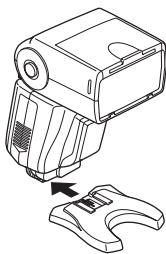
6 カメラとフラッシュの充電完了表示を確認してから撮影します。

- フラッシュの充電完了の情報はカメラ側には伝わりません。フラッシュ背面のチャージランプの点灯またはフラッシュ前面の AF イルミネータ部の点滅を確認してから撮影してください。
- カメラ側でフラッシュ補正が設定されているときは、本機で設定した補正値と合算した補正値で発光します。

注意

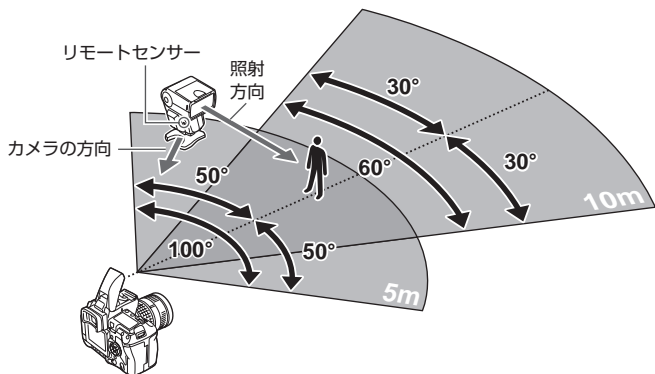
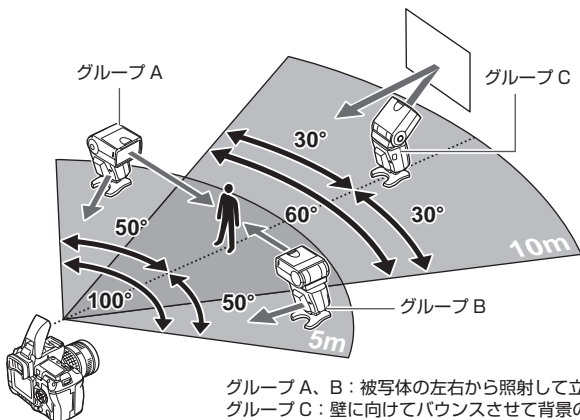
- フラッシュの照射画角は自動では連動しませんので、撮影前に確認してください。フラッシュ側の ZOOM ボタンを 1 回押すと、約 2 秒間照射画角が表示されます。照射画角が表示されている間に再度 ZOOM ボタンを押すと照射画角を変更できます。また、設定した照射画角が適切かどうかをテスト撮影で確認してください。
- 後幕シンクロ撮影をするときはシャッター速度を 4 秒以内にしてください。フラッシュは約 5 秒を超えると自動的に発光します。
- 内蔵フラッシュはリモート制御信号の送信をするため、RC モードでは撮影時のフラッシュとして使用できません。

配置について

カメラの内蔵フラッシュの光により通信を行うため、フラッシュの設置範囲はカメラによって変わります。詳しくはカメラの取扱説明書をご覧ください。

1 付属のフラッシュスタンドを取り付けます。

- フラッシュスタンドの奥にカチッと突き当たるまで、しっかりと差し込みます。
- ロックピンが出ている場合は、ロックリングを「← LOCK」の反対方向に止まるところまで回して、ロックピンを引込めてください。
- フラッシュスタンドを三脚に固定することもできます。

2 フラッシュのリモートセンサーをカメラの方向に向けて固定し、フラッシュの発光部を回転させて照射したい方向に向けます。

設置例：フラッシュ 1 灯の場合

設置例：フラッシュ 3 灯の場合

グループ A、B：被写体の左右から照射して立体感を出す
グループ C：壁に向けてバウンスさせて背景の影を消す

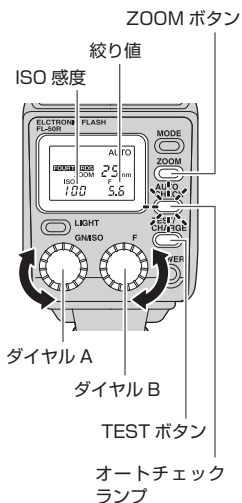
各フラッシュの光量比を変える

多灯撮影では、フラッシュの光量比を変えることで、様々な表現を加えたフラッシュ撮影ができます。まずは、グループごとに調光モードやフラッシュ補正量を変えてみます。それでも狙った効果が得られないときは以下の方法を試してみてください。

- フラッシュと被写体の距離を変える。
- フラッシュ側で発光量補正をする。
- 照射画角を変更する。

注意

- カメラの内蔵フラッシュとリモートセンサーの間に障害物があると、光がさえぎられて発光しない場合があります。
- 被写体からの反射光が十分に得られる場合や、室内などで背景からの反射が十分に得られる場合は、多少ラフな配置でも作動します。
- リモートフラッシュの設置数に制限はありませんが、相互干渉による誤動作を防止するため、1 グループ最大 3 台での使用をおすすめします。
- AUTO モードで発光させるフラッシュは、オート受光窓を被写体に向けて設置します。このときリモートセンサーはカメラの方向を向かないため、被写体などからの反射光を受けて発光します。
- 配置が完了したら必ずテスト撮影をしてください。

通信機能のないカメラで撮影する

通信機能のないカメラと組み合わせる場合は、AUTO モードで ISO 感度と絞り値をカメラと同条件に設定するか、MANUAL モードで撮影距離を合わせて撮影します。
スレーブフラッシュとしてワイヤレスで発光させることもできます。
☞「スレーブフラッシュ」（P.40）

AUTO

レンズの絞り値に合わせて発光量を自動的に調整します。

1 ダイヤル A を回して ISO 感度を合わせます。

2 ZOOM ボタンを押して照射画角をレンズの焦点距離に合わせます。

3 ダイヤル B を回してレンズの絞り値に合わせます。

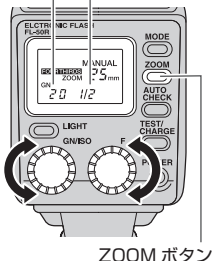
- ISO 感度、絞り値の組み合わせが、使用可能範囲から外れているときは、ISO 感度と絞り値の表示が点滅して警告します。このときは ISO 感度、絞り値を変更してください。☞「AUTO 調光範囲」（P.47）
- TEST ボタンを押すとテスト発光させることができます。☞「テスト発光」（P.16）

4 シャッターを切った後、オートチェックランプが約 5 秒間点滅すれば正しく発光しています。

発光量補正

ISO 感度、絞り値をカメラ側の設定値に対してシフトさせて設定することにより、1/3 段ステップで発光量補正することができます。

MANUAL

設定したガイドナンバー（GN）で発光します。

1 コントロールパネルにガイドナンバーおよび光量比が表示されます。

- 光量比：フル発光に対する発光量の比

2 ZOOM ボタンを押して照射画角をレンズの焦点距離に合わせます。

3 ダイヤル A または B を回し、ガイドナンバーを設定します。

絞り値、ガイドナンバーの決め方

撮影距離と絞り値を決めている場合

以下の式でガイドナンバーを求め、本機にセットします。

$$\text{ガイドナンバー（GN）} = \frac{\text{絞り値（F）} \times \text{撮影距離（m）}}{\text{ISO 感度係数}}$$

絞り値をセットする場合

以下の式で絞り値を求め、カメラに絞りをセットします。

$$\text{絞り値（F）} = \frac{\text{ガイドナンバー（GN）} \times \text{ISO 感度係数}}{\text{撮影距離（m）}}$$

最適撮影距離の求め方

$$\text{最適撮影距離（m）} = \frac{\text{ガイドナンバー（GN）} \times \text{ISO 感度係数}}{\text{絞り値（F）}}$$

ISO 感度係数

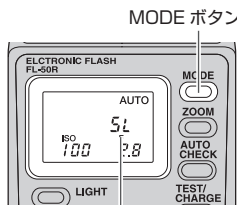
ISO 感度	25	50	100	200	400	800	1600	3200
補正係数	0.5	0.71	1.0	1.4	2.0	2.8	4.0	5.6

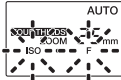
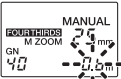
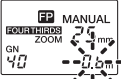
ガイドナンバーは「ガイドナンバー（GN）一覧」（☞P.45）をご覧ください。

スレーブフラッシュ

本機にはスレーブ機能が備わっています。他のフラッシュ光に同期してワイヤレスで発光させることができます。

1 フラッシュを配置します。

- 「配置について」（☞P.36）をご覧ください。

2 MODE ボタンを繰り返し押して調光モードを [SL AUTO] または [SL MANUAL] に設定します。

- フラッシュの設定は AUTO、MANUAL モードと同じです。☞「AUTO」(P.38)、「MANUAL」（P.39）

3 カメラを以下のように設定します。

- スレーブモードがあるカメラはスレーブモードに設定します。
- マニュアル発光モードがあるカメラはマニュアル発光に設定します。マニュアル発光可能な外部フラッシュをカメラに取り付けている場合も機能します。

注意

- プリ発光を行うカメラでは、プリ発光に連動してフラッシュが発光してしまうためスレーブフラッシュは使用できません。
- 他の撮影者がフラッシュ撮影している場合はそのフラッシュ光に反応して発光します。
- フラッシュの照射画角は自動では連動しませんので、撮影前に確認してください。フラッシュ側の ZOOM ボタンを 1 回押すと、約 2 秒間照射画角が表示されます。照射画角が表示されている間に再度 ZOOM ボタンを押すと照射画角を変更できます。また、設定した照射画角が適切かどうかをテスト撮影で確認してください。

警告表示一覧

警告内容	コントロールパネル表示	こうしましょう	参照ページ
AUTO モード時： 調光範囲外	通信機能付デジタルカメラの場合	カメラの ISO 感度または絞り値の設定を変えてください。	P.16
	通信機能のないデジタルカメラの場合		P.38
MANUAL モード時： 近距離		最適撮影距離が 0.6m（近接フラッシュの場合は 0.5m）より近いときは、撮影する範囲とフラッシュの照射範囲がずれるので数値が点滅して警告します。 ① カメラの ISO 感度または絞り値の設定を変えてください。 ② ガイドナンバーの設定を変えてください。	P.17
FP MANUAL モード時： 近距離		① カメラの ISO 感度または絞り値の設定を変えてください。 ② ガイドナンバーの設定を変えてください。	P.20
全モード時： ワイドパネル要求警告		ワイドパネルをセットしてください。	P.26
全モード時： 下向きバウンス		発光部が下向き 7 ° にセットされています。 近接フラッシュ撮影時以外は解除してください。	P.27
全モード時： ワイドパネル警告		ワイドパネルがセットされています。ガイドナンバーが小さくなるので被写体までの距離に注意してください。	P.26

こんなときは？

Q テスト発光によるオートチェックを有効に使いたい。

A バウンス撮影時には事前に TEST ボタンを押すことで、オートチェックランプによる適正発光の確認ができます（AUTO モードのみ）。

Q 続けて発光させたら、フラッシュが熱くなった。

A チャージランプが点灯直後の連続発光を繰り返すと、電池が発熱します。このような場合は発光部と電池が冷えるまで間隔をおいて使用してください。

Q カメラに装着できない。

A ロックピンが出ているとカメラに装着できません。その場合ロックリングを「← LOCK」の反対方向に止まるまで回してロックピンを引込めてからカメラに装着してください（☞ P.9）。

Q MODE ボタンを押しても調光モードが切り換わらない。

A 通信可能なカメラに接続すると、フラッシュの調光モードがカメラ側からしか選択できない機種があります。

Q フラッシュ撮影時、カメラのホワイトバランスを適正に設定したい。

A オートモードでのご使用をおすすめします。マニュアルホワイトバランスを使用するときは、5500K 付近に色温度を設定してください。なお、フラッシュ発光量によって色温度は変化します。

Q AF イルミネータが点灯しない。

A AF イルミネータはフォーサーズシステムのオリンパスデジタル一眼レフカメラと組み合わせたときのみ作動します。他のカメラでは AF イルミネータは作動しません。また、大型のレンズ装着時も AF イルミネータがけられるため作動しません。

Q コントロールパネルの調光範囲表示が出ない。

A 次の場合には表示が出ません。

- エクステンションチューブ EX-25（別売）を使用したとき
- レンズを外したとき
- バウンス撮影時
- 発光量補正時
- ISO 感度、絞り値の設定が範囲外のとき

Q RC モードで撮影時にフラッシュが発光しない。

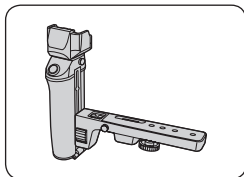
A カメラとフラッシュが同じチャンネルに設定されているか確認してください。また、グループが正しく設定されているか確認してください（☞P.35）。

Q 使用しているカメラがワイヤレスフラッシュに対応しているか知りたい。

A RC モードはオリンパスワイヤレス RC フラッシュシステムに対応したカメラのみ使用できます。それ以外のカメラでは、カメラのフラッシュをスレーブモードまたはマニュアル発光に設定できる場合にスレーブフラッシュとして使用できます。詳しくはお使いのカメラの取扱説明書をご覧ください。

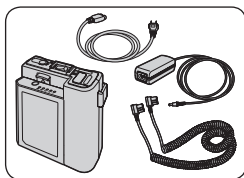
Q オリンパスデジタルカメラがスリープに入ったとき、FL-50R のコントロールパネル表示が消えた。

A 正常です。FL-50R はカメラと連動してスリープに入ります。カメラがスリープから復帰すると、FL-50R も連動して復帰します。

Q オリンパスデジタルカメラの電源を切ったとき、FL-50R も電源が切れますか？

A カメラの電源を切ったときは、FL-50R はスリープになります。再びカメラの電源を入れれば、FL-50R も電源が入ります。FL-50R の電源を切るときは、FL-50R の電源を最初に切ってください。なお通信機能のないカメラと組み合わせたときには、FL-50R を約 60 分間何も操作をしないと、自動的にスリープになります。

別売アクセサリー

パワーグリップ

● フラッシュパワーグリップ FP-1
（リモートグリップケーブル RG-1 および、フラッシュブラケットケーブル FL-CB01 または FL-CB02（お使いになるデジタルカメラにより異なります）が必要です）

単 2 アルカリ電池 4 本を電源としグリップオンタイプのフラッシュとして使用できます。
本機の電池と併用すればフラッシュの急速充電ができ、撮影可能枚数が増えます。

外部電源

● フラッシュハイボルテージセット SHV-1
（ハイボルテージパック HV-1、ニッケル水素電池 BN-1、AC アダプター AC-2）

専用のニッケル水素電池 BN-1 を使用し、フラッシュの急速充電ができ撮影可能枚数が増えます。

（当社試験条件による）

<table>
<tr><th>FL-50R 使用電池</th><th>FP-1 使用電池</th><th>HV-1 使用電池</th><th>発光間隔</th><th>発光回数</th></tr>
<tr><td rowspan="3">単 3 アルカリ電池</td><td rowspan="2">単 2 アルカリ電池</td><td></td><td>約 2.5 秒</td><td>約 510 回</td></tr>
<tr><td>BN-1</td><td>約 1 秒</td><td>約 780 回</td></tr>
<tr><td></td><td>BN-1</td><td>約 1 秒</td><td>約 400 回</td></tr>
</table>

注意

● 連続フル発光は 10 回までとし 10 分以上休ませて、発光部を放置、冷却してください。詳細は「連続発光について」（☞P.48）をご覧ください。

ガイドナンバー（GN）一覧

● TTL AUTO/AUTO

ISO100·m

ZOOM (mm)	FOUR THIRDS	8	10	12	14	17	25	35	42
	135 時	16	20	24	28	35	50	70	85
TTL AUTO/AUTO	FULL 発光	18	20	28	30	36	40	45	50

● MANUAL

ISO100·m

ZOOM (mm)	FOUR THIRDS	8	10	12	14	17	25	35	42
	135 時	16	20	24	28	35	50	70	85
MANUAL	1/1	18	20	28	30	36	40	45	50
	1/2	13	14	20	21	26	28	32	35
	1/4	9.0	10	14	15	18	20	23	25
	1/8	6.4	7.1	9.9	11	13	14	16	18
	1/16	4.5	5.0	7.0	7.5	9.0	10	11	13
	1/32	3.2	3.5	4.9	5.3	6.4	7.1	8.0	8.8
	1/64	2.3	2.5	3.5	3.8	4.5	5.0	5.6	6.3
	1/128	1.6	1.8	2.5	2.7	3.2	3.5	4.0	4.4

● FP TTL AUTO

ISO100·m

ZOOM (mm)	FOUR THIRDS	8	10	12	14	17	25	35	42
	135 時	16	20	24	28	35	50	70	85
シャッター速度	1/125	13	14	20	21	26	28	32	35
	1/160	11	13	18	19	23	25	28	32
	1/200	10	11	16	17	20	23	25	28
	1/250	9.0	10	14	15	18	20	23	25
	1/320	8.0	8.9	13	13	16	18	20	22
	1/400	7.1	7.9	11	12	14	16	18	20
	1/500	6.4	7.1	9.9	11	13	14	16	18
	1/640	5.7	6.3	8.8	9.4	11	13	14	16
	1/800	5.0	5.6	7.9	8.4	10	11	13	14
	1/1000	4.5	5.0	7.0	7.5	9.0	10	11	13
	1/1250	4.0	4.4	6.2	6.7	8.0	8.9	10	11
	1/1600	3.6	4.0	5.6	5.9	7.2	7.9	8.9	9.9
	1/2000	3.2	3.5	5.0	5.3	6.4	7.1	8.0	8.9
	1/2500	2.8	3.1	4.4	4.7	5.7	6.3	7.1	7.9
	1/3200	2.5	2.8	3.9	4.2	5.1	5.6	6.3	7.0
	1/4000	2.2	2.5	3.5	3.7	4.5	5.0	5.6	6.3
	1/5000	2.0	2.2	3.1	3.3	4.0	4.5	5.0	5.6
	1/6400	1.8	2.0	2.8	3.0	3.6	4.0	4.5	5.0
	1/8000	1.6	1.8	2.5	2.7	3.2	3.5	4.0	4.4

● FP MANUAL

1/1 発光時のガイドナンバーです。

ISO100·m

ZOOM (mm)	FOUR THIRDS	8	10	12	14	17	25	35	42
	135 時	16	20	24	28	35	50	70	85
シャッター速度	1/125	13	14	20	21	26	28	32	35
	1/160	11	13	18	19	23	25	28	32
	1/200	10	11	16	17	20	23	25	28
	1/250	9.0	10	14	15	18	20	23	25
	1/320	8.0	8.9	13	13	16	18	20	22
	1/400	7.1	7.9	11	12	14	16	18	20
	1/500	6.4	7.1	9.9	11	13	14	16	18
	1/640	5.7	6.3	8.8	9.4	11	13	14	16
	1/800	5.0	5.6	7.9	8.4	10	11	13	14
	1/1000	4.5	5.0	7.0	7.5	9.0	10	11	13
	1/1250	4.0	4.4	6.2	6.7	8.0	8.9	10	11
	1/1600	3.6	4.0	5.6	5.9	7.2	7.9	8.9	9.9
	1/2000	3.2	3.5	5.0	5.3	6.4	7.1	8.0	8.9
	1/2500	2.8	3.1	4.4	4.7	5.7	6.3	7.1	7.9
	1/3200	2.5	2.8	3.9	4.2	5.1	5.6	6.3	7.0
	1/4000	2.2	2.5	3.5	3.7	4.5	5.0	5.6	6.3
	1/5000	2.0	2.2	3.1	3.3	4.0	4.5	5.0	5.6
	1/6400	1.8	2.0	2.8	3.0	3.6	4.0	4.5	5.0
	1/8000	1.6	1.8	2.5	2.7	3.2	3.5	4.0	4.4

FP MANUAL モードで光量を 1/1 以外にしたときのガイドナンバーは以下の計算式で求めることができます。

1/1 以外のガイドナンバーの求め方

ガイドナンバー＝ 1/1 のガイドナンバー × 光量比係数

光量比係数

光　量　比	1/1	1/2	1/4	1/8	1/16
光量比係数	1.0	0.71	0.5	0.35	0.25

AUTO 調光範囲

AUTO 調光可能な ISO 感度／絞り値の組み合わせ

AUTO 調光連動範囲（m）

	ISO 感度							照射角度（mm） 上段：FOUR THIRDS　下段：135 時							
	3200	1600	800	400	200	100	50	8 (Wパネル) 16 (Wパネル)	10 (Wパネル) 20 (Wパネル)	12 24	14 28	17 35	25 50	35 70	42 85
絞り値	F8	F5.6	F4	F2.8	F2	F1.4		1.1～12.8	1.2～14.2	1.7～20.0	1.9～21.4	2.2～25.7	2.5～28.5	2.8～32.1	3.1～35.7
	F11	F8	F5.6	F4	F2.8	F2	F1.4	0.8～9.0	0.9～10.0	1.2～14.0	1.3～15.0	1.6～18.0	1.7～20.0	2.0～22.5	2.2～25.0
	F16	F11	F8	F5.6	F4	F2.8	F2	0.5～6.4	0.6～7.1	0.8～10.0	0.9～10.7	1.1～12.8	1.2～14.2	1.4～16.0	1.5～17.8
	F22	F16	F11	F8	F5.6	F4	F2.8	0.5～4.5	0.5～5.0	0.6～7.0	0.6～7.5	0.8～9.0	0.8～10.0	1.0～11.2	1.1～12.5
	F32	F22	F16	F11	F8	F5.6	F4	0.5～3.2	0.5～3.5	0.5～5.0	0.5～5.3	0.5～6.4	0.6～7.1	0.7～8.0	0.7～8.9
		F32	F22	F16	F11	F8	F5.6	0.5～2.2	0.5～2.5	0.5～3.5	0.5～3.7	0.5～4.5	0.5～5.0	0.5～5.6	0.5～6.2
			F32	F22	F16	F11	F8	0.5～1.6	0.5～1.8	0.5～2.5	0.5～2.7	0.5～3.2	0.5～3.6	0.5～4.0	0.5～4.5
				F32	F22	F16	F11	0.5～1.1	0.5～1.2	0.5～1.7	0.5～1.8	0.5～2.2	0.5～2.5	0.5～2.8	0.5～3.1
					F32	F22	F16	0.5～0.7	0.5～0.8	0.5～1.2	0.5～1.3	0.5～1.5	0.5～1.7	0.5～1.9	0.5～2.2

表の右側は通信機能のないカメラを使用したときの調光範囲の目安です。

通信機能付きカメラを使用したときは、使用するレンズに合わせた調光範囲がコントロールパネルに表示されるので、この表とは異なる表示になることがあります。

連続発光について

⚠ **注意　安全のため必ずお守りください**

連続発光すると発光部が熱くなり、劣化、故障、発光部の変形の恐れがありますので連続発光は次の回数までとし、10 分以上休ませてください。

連続発光制限回数

発光量	発光間隔	制限回数
FULL・1 ／ 1	1 秒	10
1 ／ 2	0.5 秒	20
1 ／ 4	0.3 秒	40
1 ／ 8 ～ 1 ／ 128	0.2 秒以下	80

連続撮影に同調して発光できる回数（連写速度：8 コマ／秒）

連続撮影は次のコマ数まで同調します。ただし、連続発光制限回数を超える場合は 10 分以上休ませてください。

外部電源	FL-50R 内蔵電池	発光量					
		1/4	1/8	1/16	1/32	1/64	1/128
外部電源なし	あり	2 コマ	5 コマ	10 コマ	16 コマ	30 コマ	40 コマ
フラッシュパワーグリップ FP-1（単 2 アルカリ電池／単 2 ニッカド電池）	あり	2 コマ	5 コマ	16 コマ	40 コマ	40 コマ	40 コマ
	なし	2 コマ	5 コマ	12 コマ	18 コマ	40 コマ	40 コマ
ハイボルテージパック HV-1（ニッケル水素電池パック BN-1）	あり	4 コマ	40 コマ	40 コマ	40 コマ	40 コマ	40 コマ
	なし	4 コマ	20 コマ	40 コマ	40 コマ	40 コマ	40 コマ

安全上のご注意（必ずお守りください）

本説明書では、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、重要な内容を絵表示とともに記載しています。絵表示の意味は次のようになっています。絵表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

行為を禁止する絵表示	行為を指示する絵表示
禁止　分解禁止	強制

■ 本製品はオリンパス製デジタルカメラ専用のフラッシュです。他社のカメラに接続すると、カメラおよびフラッシュが動作しなくなるばかりか、カメラおよびフラッシュが破壊する恐れがあります。

⚠ 危険

■ 本製品には高電圧回路が組み込まれています。決して分解、改造はしないでください。感電やけがの恐れがあります。

■ 加熱性ガスおよび爆発性ガス等が大気中に存在する恐れがある場所での本製品の使用はおやめください。引火・爆発の原因となります。

■ 車の運転者等に向けてフラッシュを発光しないでください。大きな事故の原因になります。

⚠ 警告

■ フラッシュや AF イルミネータを人（特に乳幼児）に向けて至近距離で発光しないでください。目に近づけて撮影すると、視力に回復不可能な程の傷害をきたす恐れがあります。特に乳幼児に対して 1m 以内の距離で撮影しないでください。

■ フラッシュ、電池等を幼児、子供の手の届く範囲に放置しないでください。以下のような事故発生の恐れがあります。

- 電池や小さな付属品を飲み込む。万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。
- 目の前でフラッシュが発光し、視力に回復不可能な程の障害を起こす。
- フラッシュの動作部でけがをする。

■電池の液漏れ、発熱、発火、破裂により、火災やけがの恐れがあります。
- このフラッシュで指定されていない電池を使わないでください。
- 電池を火の中に投入、加熱、ショート、分解をしないでください。
- 古い電池と新しい電池、種類の異なる電池、異なるメーカーの電池を混ぜて使わないでください。
- 充電できないアルカリ電池等を充電しないでください。
- 電池の＋－の極性を逆に入れないでください。

■湿気やほこりの多い場所にフラッシュを保管しないでください。火災や感電の原因となります。

■発光部分を手やハンカチ等の燃えやすい物で覆ったまま発光しないでください。
また連続発光直後は発光部に手を触れないでください。やけどの恐れがあります。

■水に落としたり、内部に水が入ったりしたときは、速やかに電池を抜き、販売店や当社修理センター、またはサービスステーションにご相談ください。火災や感電の原因となります。

■水のかかる場所でフラッシュを使用しない。

■電池を直射日光や炎などの熱にさらさない。

⚠ 注意

■異臭、異常音、変形もしくは煙が出たりする等の異常が生じた場合は、直ちに使用を中止しやけどに注意しながら電池を取り外し、販売店や当社修理センター、またはサービスステーションにご連絡ください。火災や、やけどの原因になります。

■長期間使用しないときは電池を取り外しておいてください。電池の発熱や液漏れにより、火災やけが、周囲が汚れる原因になります。

■電池の液漏れが起きたときは使用しないでください。放っておくと、火災や感電の原因となります。

■ぬれた手で操作しないでください。感電の危険があります。

■異常に温度が高くなるところに置かないでください。部品が劣化したり、火災の原因となることがあります。

■長時間連続使用したあとは、電池をすぐに取り出さないでください。電池が熱くなりやけどの原因となることがあります。

■電池室を変形させたり、異物を入れたりしないでください。

電池についてのご注意

■ 電池は指定された電池をお使いください。

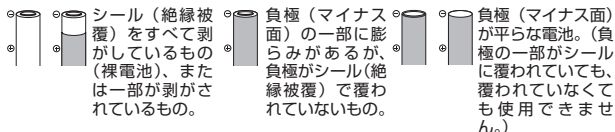
■ 以下の内容を守らない場合、電池の液漏れ、発熱、発火、破裂により、火災やけがの恐れがあります。

- 古い電池と新しい電池､充電した電池と放電した電池､また､容量､種類､銘柄の異なる電池を一緒に混ぜて使用しないでください。
- 充電できないアルカリ電池等は充電しないでください。
- ＋－を逆にして装着・使用しないでください。また電池室にスムーズに入らない場合は無理に接続しないでください。
- 外装シール（絶縁被覆）を一部またはすべて剥がしている電池や、破れている電池をご使用になりますと、電池の液漏れ、発熱、破裂の原因になりますので、絶対にご使用にならないでください。
- 市販されている電池の中にも、外装シール（絶縁被覆）の一部またはすべてが剥がれている電池があります。このような電池は、絶対にご使用にならないでください。

■ このような形状の電池はご使用になれません。

シール（絶縁被覆）をすべて剥がしているもの（裸電池）、または一部が剥がされているもの。

負極（マイナス面）の一部に膨らみがあるが、負極がシール（絶縁被覆）で覆われていないもの。

負極（マイナス面）が平らな電池。（負極の一部がシールに覆われていても、覆われていなくても使用できません。）

■ 電池の液が皮膚・衣類へ付着したときは、直ちに水道水等のきれいな水で洗い流してください。皮膚に傷害を起こす原因になります。

■ 電池の液が目に入ると、失明の原因になります。こすらずに、すぐ水道水等のきれいな水で充分に洗い流し、直ちに医師の治療を受けてください。

■ 電池に強い衝撃を与えたり、投げたりしないでください。

■ 電池を水や海水等につけたり、端子部をぬらさないでください。

■ 火中への投下や、加熱をしないでください。

使用上のご注意

使用条件について

● 本製品には精密な電子部品が組み込まれています。以下のような場所で長時間使用したり放置すると、動作不良や故障の原因となる可能性がありますので、避けてください。
- 直射日光下や夏の海岸、窓を閉め切った自動車の中、冷暖房器、加湿器のそばなど、高温多湿、または温度・湿度変化の激しい場所
- 砂、ほこり、ちりの多い場所
- 火気のある場所
- 水に濡れやすい場所
- 激しい振動のある場所

● フラッシュを落としたりぶつけたりして、強い振動やショックを与えないでください。
● フラッシュを長期間使用しないと、カビがはえるなど故障の原因となることがあります。使用前には動作点検をされることをおすすめします。
● 本体の電気接点部には手を触れないでください。

電池について

● 電池の（＋）（－）端子は、常にきれいにしておいてください。汗や油で汚れていると、接触不良を起こす原因となります。充電や使用する前に、乾いた布でよく拭いてください。
● 充電式電池をはじめてご使用になる場合、また長時間使用していなかった場合は、ご使用の前に必ず充電してください。
● 一般に電池は低温になるにしたがって一時的に性能が低下することがあります。寒冷地で使用するときは、フラッシュを防寒具や衣服の内側に入れるなど保温しながら使用してください。低温のために性能の低下した電池は、常温に戻ると性能が回復します。

- 長期間の旅行などには、予備の電池を用意されることをおすすめします。海外では地域によって電池の入手が困難な場合があります。
- 使用済みの充電式電池は貴重な資源です。充電式電池を捨てる際には、（＋）（－）端子をテープなどで絶縁してから最寄の充電式電池リサイクル協力店にお持ちください。詳しくは社団法人電池工業会のホームページ（http://www.baj.or.jp/recycle/）をご覧ください。

Ni-MH

その他のご注意

- 本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。商品名、型番等、最新の情報についてはカスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。
- 本書の内容については、万全を期して作成しておりますが、万一ご不審な点、誤り、記載もれなど、お気づきの点がございましたらカスタマーサポートセンターまでご連絡ください。
- 本書の内容の一部または全部を無断で複写することは、個人としてご利用になる場合を除き、禁止します。また、無断転載は固くお断りします。
- 本製品の不適当な使用による万一の損害、逸失利益、または第三者からのいかなる請求に関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本製品の故障、当社指定外の第三者による修理、その他の理由により生じた画像データの消失による、損害および逸失利益などに関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。

商標について

本説明書に記載されているすべてのブランド名または商品名は、それらの所有者の商標または登録商標です。

主な仕様

MODEL NO.	：	FS-FL50R
形式	：	デジタルスチルカメラ用外部フラッシュ
ガイドナンバー	：	自動切換 50：42mm 時（135 時：85mm） 28：12mm 時（135 時：24mm） 18/20 切り換え（ワイドパネル使用時）
照射角度	：	自動切換 12mm 時：上下 61°、左右 78° （12mm レンズの画角をカバー）* 42mm 時：上下 21°、左右 28° （42mm レンズの画角をカバー）* ワイドパネル使用 8mm 時：上下 83°、左右 101° （8mm レンズの画角をカバー）* * ZOOM 表示は FOUR THIRDS 時
発光時間	：	約 1/20000 秒～ 1/500 秒（発光量により変わる、 スーパー FP 発光時を除く）
発光回数 （フル発光時）	：	約 150 回（単 3 アルカリ電池使用時） 約 220 回（リチウム電池パック使用時） （撮影条件により変わる）
充電時間 （フル発光してから チャージランプ 点灯まで）	：	約 6 秒（単 3 アルカリ電池使用時） 約 5 秒（リチウム電池パック使用時）
発光モード	：	TTL AUTO、AUTO、MANUAL、FP TTL AUTO、 FP MANUAL、RC、SL AUTO、SL MANUAL
バウンス角度	：	上側：0 ～ 90°　下側：7° 右側：0 ～ 90°　左側：0 ～ 180°
オートパワーオフ	：	通信可能なカメラのオートパワーオフに連動
AF イルミネータ	：	通信可能なカメラとの組合せのみ低輝度で自動照射 有効距離の目安：0.7m ～ 7m （使用するカメラ、レンズの種類によって異なります）

RC 機能	：	オリンパスワイヤレス RC フラッシュシステムに対応のカメラとの組み合わせで作動 有効距離　約 10m 以内
電源	：	単３アルカリ電池・ニッケル水素電池・リチウム電池・オキシライド電池・ニッカド電池を４本使用。または、CR-V3（当社製 LB-01）リチウム電池パック２個使用。
外部電源	：	フラッシュパワーグリップ FP-1、フラッシュハイボルテージセット SHV-1
大きさ	：	78mm（幅）×141mm（高さ）×107mm（奥行き）（突起部含まず）
質量	：	385g（電池別）
使用環境	：	温度０～ 40℃、湿度 80%以下（結露しないこと）

外観・仕様は予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

OLYMPUS®

オリンパスイメージング株式会社

〒163-0914　東京都新宿区西新宿2の3の1 新宿モノリス

● **ホームページによる情報提供について**

製品仕様、パソコンとの接続、OS対応の状況、Q&A等の各種情報を当社ホームページで提供しております。
オリンパスホームページ **http://www.olympus.co.jp/** から「お客様サポート」のページをご参照ください。

● **製品に関するお問い合わせ先（カスタマーサポートセンター）**

フリーダイヤル **0120-084215**

携帯電話・PHSからは042-642-7499

FAX　042-642-7486

調査等の都合上、回答までにお時間をいただく場合がありますので、ご了承ください。

※ カスタマーサポートセンターの営業日・営業時間、最新情報についてはオリンパスホームページにて情報提供しております。
オリンパスホームページ http://www.olympus.co.jp/ から
「お客様サポート」のページをご参照ください。

● **修理に関するお問い合わせ・修理品ご送付先（修理センター）、国内サービスステーション（修理窓口）につきましては、本製品に同梱の「オリンパス代理店リスト」、またはオリンパスホームページ http://www.olympus.co.jp/ から「お客様サポート」のページをご参照ください。**

※ 記載内容は変更されることがあります。最新情報はオリンパスホームページ
http://www.olympus.co.jp/ をご確認ください。

Printed in Singapore　VS161201